

会 議 名	第三回 小学校移動教室・夏季学園等運営業務委託事業候補者選考委員会		
開催日時	令和6年11月26日（火曜日）午後1時から2時30分まで		
開催場所	港区役所7階 教育委員会室		
委 員 員	一般財団法人言語教育振興財団理事 奥水委員長 学校教育部長 吉野副委員長 帝京大学大学院 教職研究科 准教授 石井委員 早稲田大学教育総合科学学術院大学院名誉教授 油布委員 学校施設担当課長 井谷委員		
事 務 局	学校教育部学務課長 鈴木 学校教育部学務課学校運営支援係長 上野 学校教育部学務課学校運営支援係 青天目 学校教育部学務課学校運営支援係 田中		
会議次第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 4 第二次審査結果査及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会		
配付資料	〔席上配付〕 資料1 第一次審査結果表 資料2 第3回選考委員会スケジュール 資料3 第二次審査採点基準表 補足資料 メモ用紙 参考資料 第二回小学校移動教室・夏季学園等運営業務委託事業候補者選考委員会議事録		
会議の内容			
委員長	1 開会 ・ 配布資料確認 2 第二次審査実施概要について まず、第二次審査実施概要について、事務局から説明をお願いします。		
事務局	(事務局から資料1～3について説明)		

委員長	説明は終わりました。質問はありますか。
全委員	(異議なし)
	3 プレゼンテーション及びヒアリングの実施 (A事業者入室・プレゼンテーション実施)
A委員	3点質問します。1つ目に、基本理念について安全確保体制を「さらに拡充」という表現がありますが、具体的に何を指すのでしょうか。2つ目に提案プログラムについて、現在箱根ニコニコ高原学園が提供しているプログラムと内容が似ているのですが、御社が独自に考えたプログラムはありますか。3点目も提案プログラムについて、現在各学校が訪れている小田原城が外れている理由と、特別支援学級合同移動教室の雨の日プログラムには座学が組み込まれている理由を教えてください。
A事業者	まず1つ目の質問ですが、具体的には弊社の事業部では、年間5自治体から宿泊行事の案件を承っています。その中で、これまで我々も気づかなかったような実証、例えばアレルギー対応が必要な児童について、通常のアレルギー対応以外にこれまでになかった個別対応などの知見を高めてきました。これまで蓄積した過去の事例を活用した解決策の提示により、安全体制の更なる拡充につながると考えています。 2つ目の質問と3つ目の小田原城については今回ご提案させていただいた見学施設はあくまで一例ということで提案しています。各学校を担当させて頂く職員が決まった後に学校にプログラムのリストをお配りし、学校の要望に応じて弊社としてできることを提案します。 特別支援学級の雨の日プログラムについては、雨の日に外で何かを見学や体験するのではなく、座学を通して学ぶものがあると考え、提案しました。
B委員	実績もあり提案内容に安心感がうかがえました。具体的な実施の場面を想定した質問をさせていただきます。 1点目は、会社から各学校の担当者が配属されるということですが、担当者はこういった方を想定していますか。例えば有期雇用の社員になるのか、もしくはある程度の経験や責任のある方がなられるのでしょうか。 2点目は前の委員が聞いた内容とも重なりますが危機管理の部分で特に

A事業者	学校では相手が児童・生徒なので、予期しないトラブルが起こるものだと思います。そのようなマニュアル等にもないような予期しない事例に対して対応・改善した具体例があれば教えてください。 1点目の担当者ですが、役職としましてはグループリーダー、いわゆる係長クラスで入社して16年以上の者を想定しています。また、担当者の中でも営業担当課長と記載されているのは、営業歴30年以上で、都内を中心とした学校教育における営業のスキルに長けたものが担当しますので、特に若手が担当することはないということでご安心いただければと思います。 2点目の予期しないトラブルへの対応事例ですが、添乗員が1日程につき1人つきますが、添乗員も基本的に学校の旅行等の経験豊富なものをつけますので、過去の蓄積から類似事例を引き出して対応させていただきます。どうしても判断つかなければ担当者や教育委員会様と相談の上で対処をしたいと思っています。 対応の具体例としては、日光での宿泊行事の際に、現地で熊の目撃情報があり、その際添乗員からすぐ連絡をもらい、翌週以降に出発する学校に対しても情報共有をして、行程の変更等をご検討いただいた事例もありました。
B委員	添乗員も、御社に所属されている方なのですね。
A事業者	そのとおりです。
B委員	わかりました。ありがとうございます。
C委員	港区の掲げる教育ビジョンの中で、御社が一番に力を入れて、理解して具体化された部分がどこかお伺いしたいのが1点目。 2点目に、他の区の実績をいろいろお伺いして、信頼感はあるのですが、港区ならではのリスクや港区ならこういうところを手厚くするというようなイメージをお持ちのところがあればお願いします。
A事業者	1点目のビジョンについて印象に残ったのは、「自ら考えて行動する」というところです。移動教室を通じて児童様が新しい経験をする中で、工夫や友達と共同しながら自ら考えて進めていくことを通じてビジョンの達成に導くということです。また、一方では知徳体の学びを育むといった方向性に

	関する言葉もあったかと思います。弊社としては、まさにこの移動教室がそういう場になればと考えています。 2点目の港区様ならではのリスクというところですが、やはり港区は外国籍の方が多い地域ですので、食事やその他の個別対応といった部分で配慮すべきことがあると思っており、我々旅行会社としてできる提案を過去の経験を踏まえながら、しっかりご提案させていただきます。
C委員	ありがとうございます。追加で質問ですが、移動教室と夏季学園、提案の中では一緒にご説明された部分もありましたが、2つの事業の違いはどこだと考えていますか。また、「様式7 2-4の連携体制」について関係機関とのHUB機能となることを書かれていますが、特に連携が困難だと予測している部分はどこだと思えますか。
A事業者	1点目は実施時期が異なるので見学・体験できるものに差が出てきます。時期による見学施設等のプログラムの情報提供に努めてまいります。 2点目は、箱根ニコニコ高原学園との連携が特に重要だと考えています。弊社では旅館を使用しての宿泊行事は得意とするところですが、区の施設独自の手続きやルールがあるので事前のすり合わせが必要ではないかと考えています。
D委員	1点目に、学校も計画性をもって臨みますが、急な天候の変化等で柔軟な対応を求める場面があるかもしれませんが、対応が難しい、配慮が必要な部分があれば教えてください。 2点目に、基本理念にある「子どもたちの笑顔と感動を演出する体制の構築」の具体的例について教えてください。
A事業者	1点目は、天候の変化の場合は見学施設の連携が課題だと考えます。晴れの場合は見学しないが、雨の日だったら場合は行く施設など、複雑な交渉も弊社が責任をもって行いますので、天候の影響により判断が必要な期限がある際は、関係機関に迷惑をかけないように学校様と連携を密に取りながら進めていく必要があると考えています。 2点目は先生と伴走して旅行行事を作り上げていくことだと考えています。まず先生方が弊社を信頼していただき、行事に集中していただける環境を作り上げることで行事の成功につながると思います。そのためには先生とのコミュニケーションで信頼関係を築くことが重要だと考えています。

E 委員	様式 7 の 1 ページの基本理念の部分で、「積極的な情報開示による出発前の安心感の提供」について述べられています。この具体的な取り組みと効果、学校や保護者の反応について教えてください。
A 事業者	先ほどの日光での熊出没の件では保護者から不安の声が寄せられていましたので、添乗員によるブザー所持と現地随行、現地の同行者の増員、先生方にもクマ鈴等の携帯をお願いして安全に実施することができました。
B 委員	日光の経験を多くお持ちのようですが、箱根方面でのトラブルや対応はありますか。
A 事業者	行程の中でのバスの故障の経験がありました。バス会社との連携で代車の手配や児童の分乗により、最小限の影響に留めたことがあります。こういった安全面の対応は関係機関と連携をとりながら、学校及び保護者様への情報提供を行いました。
A 委員	移動教室・夏季学園ではグループで別行動をする場面もありますが、その際のリスクや対応について考えられることを教えてください。
A 事業者	現地でトラブルが発生した場合の連携が課題だと思います。今回は必ず 1 名添乗員がついておりますので、添乗員から弊社本部、学校様、バス会社、教育委員会様との連携体制を活用して対応します。
事務局	よろしいでしょうか。それでは以上を持ちまして、A 事業者による提案説明を終了します。 (A 事業者退室) (採点) (集計／第一次審査・第二次審査集計結果共有) 4 第二次審結果査及び事業候補者の選定について (事務局より集計結果について説明)
委員長	各委員から講評をお願いします。

A委員	まず、これは事務局に対してですが、今回の募集において、添乗員をつけたことは各学校の補助になるだけでなく、行程の質が高まるのでありがたいと思います。 次に、事業者に対しては、まず外国籍の児童への配慮の姿勢があること、学校と旅行会社の間をつなぐプラットフォームがあることが非常にいいと思いました。これまで電話をかけないと確認できなかったことが、時間を気にせずに確認できる点、また使用の選択権を学校に委ねている点も評価しました。
B委員	私は総合的に高めの評価をつけています。それぞれの評価項目で問題があるかどうか、という視点で評価しましたが、大きな問題は見受けられなかったので「優れている、やや優れている」の評価が多くなりました。やや優れていると評価したのは基本理念と企画提案内容ですが、基本理念は学校の要望に寄り添っていく点は評価できましたが、もう少し体験学習などの提案内容に幅が欲しかったというところ。企画提案内容は高原学園との連携について、区の施設という自覚は伺えましたが、具体的な認識の乏しさを危惧したため評価に差をつけました。 コミュニケーション能力については評価が難しかったですが、質問にははっきりと答えていただいていたと思います。
E委員	全体的に信頼できる業者だと感じつつも、意欲の面では今回の企画提案に関する補足説明があまり足りず、熊のことしか残らないような印象を受けました。ただ、企画提案の内容のところでは普通という評価にしたものの、先ほどのA委員のお話の中にもありました外国籍の児童の対応の認識や、学校と旅行会社間のプラットフォームのことは評価できると思ったので、評価を再検討しようと思います。
D委員	概ねしっかりとした提案であるという印象を受けて採点しています。企画提案内容は普通かなとも思いましたが、E委員と同様にさきほどA委員がおっしゃった外国籍児童の対応や学校との連携体制の話を伺うと、たしかに評価できると思います。そのほかの部分は、無難な印象を受けたところです。
C委員	基本理念の部分の評価を大きく下げているのは、移動教室と夏季学園の違いが「時期」だけという認識だった点です。やはり認識によって提案する内容の中身が変わってくるので、第一回の選考委員会では募集要項にも事務局からの提案で「移動教室とは～、夏季学園とは～、特別支援学級合同移動教

	室とは～、」といった概要を記載していたことが事業者の認識に反映されていないのではないかと感じました。他方で体制が安定している会社であることは確かだと思いますし、民間の宿泊施設と異なり区有施設を使用するということはよく理解されていると感じました。その他項目は皆さまと同じ意見です。
A委員	行程が上手くいくかどうか、最終的には添乗員次第なところもあって、添乗員の質の担保はお願いをしていきたいと思います。
B委員	添乗員に関しては自社の方が来てくれるのでA事業者の強みのように感じましたが、一般的にはこうなるといった目安はあるのでしょうか。
事務局	募集要項では添乗員の同行以外に、添乗員の雇用形態や経歴は求めておりませんが、少なくともプレゼンの場では「自社の人間が同行する」との発言があったので、A事業者が決まった場合は、会社として責任を持った方に同行してもらえようをお願いをしていきたいと思います。
委員長	そのほかよろしいでしょうか。それでは意見交換を踏まえ、自身の採点について振りかえる時間を設けます。採点を変更する場合は、お手元の採点表の原本に朱書きで修正してください。 (再集計／第一次審査・第二次審査集計結果 再配付)
委員長	各委員の皆様は点数の確認をお願いします。
全委員	(異議なし)
委員長	A事業者の第二次審査の合計点は492点、第一次審査と第二次審査の合計点は1,392点となり、最低ラインとなる基準点は超えています。 当委員会として、A事業者を事業候補者として選定することとしますが、異議はございませんか。
全委員	(異議なし)
委員長	それでは、A事業者を事業候補者として選定します。

委員長	5 その他 (事務局より事務連絡) 6 閉会 それでは、以上をもちまして、第3回事業候補者選考委員会を終了します。 本日はお忙しいところ、ありがとうございました。
------------	---